

30年度 桜NT 防災住民意見交換会記録

日時：2019年1月26日（土） 13時30分～15時30分

場所：広岡交流センターホール

講師：つくば市危機管理課 鈴木主事 岡崎主事

参加者数：27名

講座概要

本日は皆さん備蓄について話し合われるということで、備蓄について話をさせていただきます、備蓄を考えると足りがなく、市にとっても難しい問題です。

これから話をすることが皆様の話し合いの材料になったらいいと思います。

まず防災倉庫の話をしたいと思います、防災倉庫は各小中学校においてあります、中身は去年も話をしているので重複するところがあるかもしれません。

置いてあるものはクラッカー、生活に必要なもの衛生用品、毛布、ブルーシート、簡易トイレ、資機材、発電機等ですが、今後こういったものを市として充実させていくのか課題になっています。

備蓄品もいいものが出てくるので、市としてもアンテナを張って考えていこうと思っています。

学校の役割として学校は拠点であるということ去年も話をさせていただきました。もちろん避難所としても指定はされていますが、イメージは拠点であると考えていただきたいと思います。物資を配る拠点、水を配る拠点、情報を提供する拠点として災害時には機能させていきたいと考えています。

局所的な災害ではなくて、例えば地震のように広い範囲でかつ家が倒れてしまうような災害に対しては、拠点として開ける学校は少なくなります、そういった大きな地震が起きた場合、小学校レベルでは開設が難しい、おそらく中学校レベルになります。なぜかという職員もつくば市民が多いので、当然職員も被災します。自助共助と災害規模の相関関係の図を見るとわかりますように災害が大きくなればなるほど公助は少なくなります、これは否定できない事実ですので、このことは念頭に置いていただきたいと思います。だからこそ重要なのは今回皆様が話し合いになる備蓄、普段からの備えになります、自助共助公助と申しましたがやはり重要なのは自助です、自宅でいろいろ備えていたとするそれが自助ですが、自宅だけがをってしまったらどうしようもありません、共助をしようにも自分がけがをしてしまったらどうしようもないので、危機管理課としてはまず自助をしっかりしていただきたいということを皆様をお願いしています。

自助で備えるものと共助で備えるものがあると思います、まず各家庭で準備するものとしては自身で食べるもの、飲むもの、生活に必要なもの、自宅の格納庫とか家を耐震化するとか所謂けがをしないようにする工夫も自助になります。

地域で備えるものは何かというと各家庭で備えるのが困難なもの、例えば災害用の井戸、防災倉庫、みんなで使えるものは共有スペースに置いておく、役割分担を考えながら話をさせていただくと思います。

つくば市には救急車が10台もありません、災害が起こった時救急を呼んでもすぐ来てくれるとは限りません、なので災害時に怪我をしないようにする工夫が重要になってきます。

ホームセンターに売っているテレビやレンジの下に敷く青いやつ（クッション）、タンスを固定するものとかいろいろな防災グッズを売っているので、こういうものを利用してもらっただけでも怪我をすることが少なくなると思います。

大阪北部地震の例ですが、ライフラインの復旧は、都市ガスは1週間、上下水道約5日間、電気は約

1日で回復しています、ここら辺も備蓄をするうえで参考にさせていただければいいと思います。

家庭での備蓄の方法ですが、備蓄品を別に用意してあるという人もいますが、普段使うものを少し多めに用意しておく、それで期限の近いものから使っていく、多めに買った分が備蓄としてあることになります、これを日常備蓄と言っています、備蓄品の賞味期限を気にしなくて済みます。

日常備蓄だけでは量的なものに不安が残るということも確かにあります。

食料を備蓄している人は少なくとも年に一回は賞味期限を確認したり、そもそも保管場所を家族全員が共有できるようにしたりしておいていただきたい。

薬手帳を持っていると診療できなくても薬を処方してもらえることがあります。

また、いざというときの家族との連絡方法を家族で話しておいていただきたい、NTT では伝言ダイヤルもある、普段練習しておかないとイザというときに使えないので、1日とか15日が体験日になっていますので普段から練習しておくとういとおもいます。

あと集合場所を決めておくとかするとういとおもいます。

防災の情報をどうとるかですが、協定を結んでいるラジオつくばとか茨城放送とかで情報を取っていただきたい、つくば市の災害通知メールもあります、その他緊急速報メールというのがありますが、災害時に強制的に入ってくるメールもある、ドコモでいうとエリアメールというものです。

気象情報についてはインターネットで雲の動きから河川の水位まで見られるので、市も実はそういうHPを見ながら防災情報を詰めています。

NHKのデータ放送のdボタンを押して情報を見してみるのもよいと思います。

質疑応答

・自主防ではHPを作っていますが、今日のプレゼン資料をHPにも載せたいがよろしいでしょうか。

～確認してから返事させていただきます。

・防災の拠点として学校があるという話がありましたが、その時小学校と中学校の位置づけというのは違っているのですか、それに関連して小学校と中学校の防災倉庫の中身も違うのですか。

～違いはありません、小中学校の話をしたのは災害の規模によって拠点の数が減ってくるということです。

・つくば市の備蓄は5年計画で今年が最後だと思いますが、一応計画通りに進んだという認識でよろしいでしょうか。

～一応5年計画で必要分は確保されています。

・ここは、避難所は桜南小学校に行きなさいということになっています、倉庫は桜南小学校にある、近くに並木中学がありますが、桜南小学校に行くのか並木中学校に行くのか、そういうのは自分で選択していいのですか、それともこの辺の人は桜南小学校に行ってくださいというのがあるのか、同時に小学校と中学校が避難所として開設されるのですか。

～局所的災害でこの地域だけ被害があるような場合は、当然その近くの小中学校合わせて開設することは当然あります、どちらしか開けないということは全くありません、ただどっちの倉庫を使ってもいいかという話ですが、学校ごとにやっている学校防災会議というのがあって、それは区会の方も出席していると思いますが、その場で了承が得られれば倉庫のカギを渡すことができることになっています。

桜NTがどこの学校会議になっているか確認しないとわかりませんが、学園内のということで考えてもらえればいいと思う。

・桜南小学校まで避難しようと思ったときには、かなり大きな地震の時だと思う、しかし（防災倉庫の

備蓄量が) カセットコンロが一つしかないとか、毛布の備蓄が 20 枚だったら受け入れ人数は 20 人なんですよ。

～そういうわけではないんです、そういう質問が多いのですが、倉庫に入っているものだけを使うということではありません、いろいろな倉庫から集めてくることになります。必要に応じて手配することになります。

・そうなる避難所に行ってすぐ毛布があるわけではないので、ある程度自分の備蓄を持っていかねばならない、という考えでいたほうがいいですか。

最初の 3 日間は避難所に行ってもあまり助けてもらえないのではないかな。

～ご自身で用意できるのであればそれはそれで望ましいですが、災害なのでそうはいかないこともあると思います。持っていけるものは持って行っていただいて結構ですが、それまでに例えば怪我してしまうとか避難できないという可能性のほうが高いのかなと思っていて、お宅の家具を固定するとか怪我しない工夫をして、避難できるようにすることが大事かなと思います。

桜 NT で何棟も壊れるということになると避難所として指定している建物も無事かどうかわかりませんが、今ははっきり言ってお宅のほうが丈夫という例がけっこうあって、耐震化という言葉がありますが S56 年以前の建物を S56 年の新基準の強度に合わせただけなので、建物はそういう基準になっているが、それより新しい建物に追いついているかというそういうことではないのでご理解いただきたい。

・家庭の備蓄と共助の部分での地域での備蓄の種わけの話をされたと思いますが、もちろん自助の部分で 3 日頑張るといえるのはいいのですが、自分の家が倒れてしまったりとか、そういうことで避難所に来なければならない方のためにも、ある程度共助の部分でも水なんかを用意する必要があると思うし、もちろん防災井戸、防災倉庫そういうものはもちろん地域でやるのですが、防災倉庫の中身で置いておくものをどうすればいいかということ、自主防の中でも物と量をどうするか話になって、家庭ではもちろん自分に合った家族の分で備蓄するというのは当然だし、自分でやらなければいけないことですが、共助でどこまでやるかというのが自助でできない分だけではなく、まったく同じようなものでも整備しなければいけないこともあると思う、その時水 1 日 3 ℓ という量を人数分などというのは無理だし緊急的な何日分ということになってしまうが、その辺の最適化というか防災倉庫もそんなに広くはないし、かといって備蓄はしなければいけない、その塩梅がどこに来るかそこら辺がどうしたらいいか悩んでいるところです。

～そこが一番難しくこうすればいいのではないかということを示すことができない。自助でやる場所はやらなくていいかということ、そうでもなくて地震で生き延びるためのものを準備できない人もいる、そこは共助として考えていかなければならないので、どういったものをどのくらい準備しなければいけないかも含めて考えていかなければならないのかなと思う。

皆様のところでネックになるのは水ではないかと思います。水は備蓄するのが難しい、飲料水であればペットボトルで確保ということも考えられますが、生活用水はすごい量を必要とするので生活用水をどうするかが皆さんの課題だと思います。これは桜 NT だけではなく他の地域でも同じです。

雨水を集めて生活用水にする防災グッズも出ているようですが、そういった商品も含めて自助になるかもしれませんが、少しでもそういったものを使って生活用水を確保する工夫も必要ではないかな。

・そういう雨水を蓄えるものは、土浦市では市が補助金を半分出すようになっています、つくば市に聞いたらつくばではそういうのはやっていませんと言われました、あれはすごくいいと思う、2 万位らしい、半分補助してほしい。

～そういう意見があったことは伝えておきます。

・小中学校にそういう大きな施設を作っていて震災の時それを使い便利だったということ聞いた、そ

ういう公の避難場所になるようなところでも、普段から雨水をためておくというのも市でやるというの必要ではないか。

- ・備えるべき地震ですがプレート型の東北地震の茨城版か首都圏直下型か、それが伝わってくると震度7まではいかないかもしれませんが、市役所の戦略としてどの地震に備えるべきでしょうか。

想定すべき地震の重みのつけ方なんです、それによって自宅の自助のやり方で、私の家は震度7には耐えられないが、震度5強くらいまでは耐えられるように強化の途中なんです。どのへんで止めるか、震度5以下はあまり必要ないが、震度6で家が中壊するくらいの、地域で共有している地震といえばこれだというような、どのような地震が一番可能性が高いか情報が知りたい。

家が壊れて住めなくなるというのが大きな問題です、住めるということになると全然違って来る、住めるようにしたい。逃げ出さなくてもいいように自宅もしくは自宅の庭で過ごせる、そういう地震を対象にするのか。それとも震度7くらいを想定しないといけないような、そういう防災の覚悟をしておいてくださいということで、茨城南部の意識としてはどの辺の地震に備えようとしているのか。

簡単に結構ですのでどう地震に備えておけばいいのか、震度7なのか6なのか、海洋型なのか直下型なのか、という情報をいただきたい。

- ～詳しくありませんので地震に関して詳しいことは申し上げられませんが、ただ茨城県が最近地震に対する被害想定を出しています。つくば市だと6強だったと思います、地震の種類によって対応を変えているということはありません、出来るだけ大きな地震が来てもそれに耐えられるように準備をしておくに越したことはありません。

地震の被害想定についてはHPに出ているのでそれを参考にさせていただくと思います。

- ・自宅在宅療養をしているケースですが、一番心配なのは先ほどから水の話が出ていましたが、呼吸器を使っていると電力なんです、最大6時間までしか持たないその間に手を打たなければいけない。普段から停電に対する備えをしておかなければいなくて、バッテリーを2台買って少なくとも1日は持つように自分で対策をしていますが、2台あるので1台はなくなったらどこか電気が通じる場所にそれを持って行って、そこで充電してそれでまた持ち帰ってくるというようなことをしなければいけないかなどか思っていますが、停電になった時一番怖いのはどのくらいの間停電しているのだろうかというのがまず分からないこと、すぐつくかもしれないし1日たたないとつかないかもしれない、そういう情報が欲しい。

1分くらい停電した時もすごく不安になる、狭い地域で停電しているけれど他は大丈夫だ、ということもあるかと思うのでそういう情報も欲しいなとか。保健所といろいろ相談してどうしたらいいか、基本的にはどこか病院に駆け込んで、駆け込めば病院に発電機があって何とかできるのではないかと、東京電力はそういう人のために燃料の発電機といったものを貸し出す制度もありそう、そういうものに登録しておく、優先的にそれを貸してもらえるのがあるが、つくば市ではそういう電力に関して災害時の対策を考えられていますか、まず一つは電気の情報とそして発電機の配布とかそういったことを考えられているか伺いたい。

- ～正直電気については我々としても課題です、非常用電源をどうするかとかは非常に難しく、東電から我々のほうに入ってくる情報についてはすぐさまツイッターやHPを通じて出すようにしています。

どれくらいで復旧するかは我々のほうでも分からなくて、住民の方からも市役所のほうに問い合わせがあったりしますが正直分からないほうが多いです。電源をどうするかといった具体的解決案みたいなものは今のところありません、そういう分野であれば福祉部局とか一緒に考えたほうがいい分野かなとも思います、そこは申し訳ありませんが課題で明確な答えができません。

- ・そういうケースもあるということで今後の防災について考えていただければと思います。
 - ・情報を住民から発信するというのは、例えばここで重体の人がいますとか緊急を要する人がいますとかいった発信はどういう風にすればいいですか。
- ～例えばそういった方がいる場合はまず公的機関に連絡していただくことが一番になりまして、当然市役所でもいいと思いますが、市役所から消防に連絡させていただくよう対応させていただくのですが、地域から発信すべき情報というものはどういったものなのかなということですが。
- ・例えばこの地域ではこういうことに困っていますとか、被災者が何名で怪我した人や重傷者が何人とかそういう発信ですかね。
- ～そういうことであれば市のほうで、災害時なので災害対策本部になるとと思います。
- ・それって電話ですか
- ～電話になります
- ・電話が通じるかなって、
- ～電話が通じないときもあると思うのですが、そういうときって市のほうでも市内に情報を集めに行きます。例えば道路の情報を集めたりしているので、そういうものを利用してもらったり、SNS やメールで連絡してもらおうとかそういうことしか想像できなかったのですが、確かに難しい問題だと思います。
- ・どこの道路が壊れているとかは地域の人が一番わかるので、地域からの発信を逆にすれば来てくれることも大事ですが、いち早く知ることができると思うので、情報のやり取りを確立とかみんながわかっていれば動きやすいのかなと思います。
- ～そうですね。ありがとうございます。
- ・つくば市の防災無線の基本的な考えというのは、どうなのでしょう。
- ～市の考えは災害が発生する可能性が高いエリア、土砂災害警戒地域とか浸水想定区域がありますが、それに指定されているところに立っています。現時点で整備が終わっていないので、今後数年かけて整備していく段階です、そういうハザードがかかっている家についてもそういう段階でそのほかについての建設の予定はありません。
- ・そうすると市役所がハブになって各地の情報を吸い上げるというのは今のうちに、韋駄天みたいに走って伝えにくしか方法はないということですか。
- ～防災無線がたっているとしてそれを使って本部に連絡がいくというわけではありません。
- ・民間ですとアマチュア無線を使って各拠点ごとにその状況を本社が把握するとか、行政でもできない事はないと思うのですが。
- ～おっしゃる通り公的施設、ここでいえば交流センターそういう情報を吸い上げる場合の拠点になることは大いにあると思います、そういう場合に例えば本部に連絡したい情報があれば、交流センターがあるので、交流センターに情報を持ってきていただくのも手だと思います、そこには職員もいますし、災害が起こった場合には交流センターを所管する市の職員が被災状況などを確認するようにマニュアル上なっていますので職員が来るはずですが。
- ・電話が通じない、電気がこないというときここはどうされるのか。
- ～そうなったとき災害対策本部としてどういう決断をするかですが、それでも自宅が被災してつぶれて避難者が出てしまうとか、遠くの小学校まで行けないとかそういう場合にはここを避難所として使う場合もありますし、災害が起こってみないと何とも言えないところですが。
- ・一番怖いのはここが陸の孤島になって取り残されてしまうというのがあって、通常ですとここにみんなが一時的に集まって、水が足りないとか何が欲しいとか言って、それを自衛隊のヘリが持ってきて

くれるというのが望ましい形なので、つくば市って山手線が入るような広い地域なのでそこがやっぱり広域的に考えていただけたらと思います。

・最後に確認させていただきたいと思います、学校というのは物資や水・情報の拠点ですということですが、実はこの交流センターも避難所に指定されているわけです。

去年の話ですが、小中学校だけで54校、被害が大きくなれば15校の中学校にしか物資を届けられないということですが、そういうことになるとこのような末端の避難所には全然物資は運べないと認識しておいたほうがよろしいですか。

～小中学校という中にこう言った交流センターも含まれているので小中学校交流センターというのは避難所としてのくくりで考えていただきたい。災害規模に応じてはやはり拠点は少なくなる可能性があるので、それに備えて皆さんは準備しておいていただきたいということです。

今の時点でここまで物が運べるとか運べないとか、交流センターを必ず使うとかいう約束はできません、災害が起こってどういうことができるのか、体制がどうなるかわからないので何ともお答えできなくて申し訳ありませんが、ニュータウンの近くに避難所ができないという可能性ももちろんあります。

交流センター自体が壊れてしまったとかそういうこともあるのでなるべくそうなるも・・・

・自分で用意しておいたほうがいいということですか。

～そうです。それしか申し上げられません。

グループディスカッション

自主防として何を備える

被害がどのくらい出るか予想を立てる必要がある、そして災害弱者がどこにいるかも知っておく必要がある。今度6強という地震が起きたら2回目ということもあり、交流センターも倒壊するかもしれない。交流センターが使えない、しかも雨が降っているという条件で、中央公園に100人が集まったらどうするか。飲み物・食べ物、雨を凌いで寝るところそしてトイレ。

一番困るのはトイレでしょう。10個は欲しい（今あるのは2個）ブランコの支柱を使ってブルーシートで囲ってその中に簡易トイレを置くことも考えられるのでは。簡易トイレが足りないときはバケツを利用することも考えられる、その時は90ℓのポリ袋があるといい。

雨を凌ぐにはお祭りテントを使う10張りはある、下にはお祭りですべての櫓の敷板を使う、中央公園とするとどのように配置するか考えておく必要がある。

家庭用備蓄品

討議参加者の中では飲料水の「備蓄率は高かったが、生活用水、簡易トイレの備蓄率が低い。生活用水は住民の井戸所有者の水を提供してもらえるが、エコキュートを備えている家は断水になってもたまっている水を使える。また空いたペットボトルに備蓄しておくのもよいのではないか。

家庭で備蓄すべきものはネット情報や東京防災などの情報を参考にするといい。

すぐに持ち出せるものを非常用持ち出し袋に、健康保険証、お薬手帳（携帯電話等で写真を撮っておくといい）、つくつく見守り隊のメモを冷蔵庫に。

停電対策として車を利用、電源コンセントやスマホ充電。

消毒用品（アルコールやクレベリンスプレーなど）断熱シート寝袋など。いざというときはやはり「現金」公園でキャンプ体験をしてみたい自信が付き足りないものもわかる、子供も喜ぶ。